

金沢21世紀美術館 交流課事業 映画上映

映画の極意 vol.17 マノエル・ド・オリヴェイラ監督追悼特集

永遠のオリヴェイラ



1

2016年12月2日(金)～4日(日)

2015年に享年106歳でこの世を去った
ポルトガル映画界最大の巨匠
マノエル・ド・オリヴェイラ監督の功績を偲び
代表作「アブラハム溪谷」や
日本未公開作「フランシスカ」を含む
厳選された珠玉の8作品を上映する。

イベント名	映画の極意 vol.17 マノエル・ド・オリヴェイラ監督追悼特集 永遠のオリヴェイラ		
日時	2016年12月2日(金) 19:00～ / 3日(土) 10:00～ / 4日(日) 10:00～ ※4日 13:30より関連トークイベントあり		
会場	金沢21世紀美術館 シアター21		
料金	[1回鑑賞券] 一般 1,500円 / 大学生以下 800円 (友の会:一般 1,350円 / 大学生以下 700円) [3回鑑賞券] 一般 3,000円 / 大学生以下 1,500円 (友の会:一般 2,700円 / 大学生以下 1,350円) [フリーパス] 一般 5,000円 / 大学生以下 2,500円 (友の会:一般 4,500円 / 大学生以下 2,250円) ※ 大学生以下の方は要学生証提示		
チケット取扱	金沢21世紀美術館ミュージアムショップ TEL 076-236-6072 ※窓口販売のみ チケットぴあ(Pコード:466-969)、ローソンチケット(Lコード:53895) ※友の会チケットはミュージアムショップ、友の会専用WEB予約フォーム、当日受付にて販売。(要会員証提示)		
主催	金沢21世紀美術館[(公財)金沢芸術創造財団]、一般社団法人コミュニティシネマセンター		
共催	ポルトガル大使館	特別協力	東京国立近代美術館フィルムセンター、 川崎市市民ミュージアム、岩波ホール
フィルム提供	東京国立近代美術館フィルムセンター		
お問合せ	金沢21世紀美術館 交流課 TEL 076-220-2811		

取材申込み/問合せ先

金沢21世紀美術館 広報担当:川守(広報室) 事業担当:高橋(交流課)
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
http://www.kanazawa21.jp E-mail: press@kanazawa21.jp
※ご取材の際には、事前にご連絡をお願いします。



「映画の極意」シリーズとは？

金沢21世紀美術館シアター21を会場に、政治、社会、哲学、生と死、消費文化、人間の不条理、遊び、時代と娯楽、映像美といったテーマごとにセレクトした作品の上映とゲストによるトークを合わせて行う企画です。

特集概要

オリヴェイラは世界最大の映画作家である一蓮實重彦(映画評論家 / 東京大学名誉教授)

現役最高齢の映画作家として数多くの作品をつくり続けたマノエル・ド・オリヴェイラ監督が、2015年4月2日に106歳で亡くなりました。日本では、1993年に開催されたポルトガル映画祭で初めてオリヴェイラ特集が生まれ、同年の東京国際映画祭で『アラハム深谷』が最優秀芸術貢献賞を受賞、オリヴェイラ監督という偉大な映画作家の存在を知らしめました。これ以後、ほとんどの長篇が劇場公開され、オリヴェイラ監督は日本の映画ファンが最も敬愛する映画作家となりました。

本特集では、80年をこえる映画人生でマノエル・ド・オリヴェイラ監督が遺してくれた珠玉の作品群より、監督第一作『アニキ・ポポ』(1942)から遺作となった『レステロの老人』(2014)まで、日本未公開作『フランシスカ』(1981)を含め8本を上映します。併せて、1991年以降、ほぼすべてのオリヴェイラ作品の映像編集を手がけたヴァレリー・ロワズルーによるオリヴェイラ映画へのオマージュ作品も特別上映します。

この特集は、コミュニティシネマセンターが全国各地の映画専門施設(シネマテーク)と共同して行う「シネマテーク・プロジェクト/Fシネマ・プロジェクト」として、実施しています。

巡回会場: ユーロスペース(東京) / 川崎市市民ミュージアム(川崎市) / 金沢21世紀美術館(金沢市) / 神戸アートビレッジセンター(神戸市) / シネヌーヴォ(大阪) / 広島市映像文化ライブラリー(広島市) / 山口情報芸術センター(山口市) / 川崎市アートセンター(川崎市) / 高崎映画祭(高崎市) / アテネ・フランセ文化センター(東京)

見どころ

1. カンヌ国際映画祭パルムドール名誉賞など世界的に評価され、106歳まで現役として活躍したポルトガル映画の巨匠の生涯を時代ごとの代表作でたどる

裕福な貴族の三角関係からロボットと人間の恋愛、経済格差の社会風刺、宗教的信仰の断絶、人間にとっての幸福とは何か、などの幅広いテーマを、映画の枠組みを超えて演劇やオペラなどの形式さえ用いて実験的に捉え直し続けたオリヴェイラ。初期は少年少女の冒険といった王道のテーマを扱うも、反権力的発言から投獄を経て、70～80年代には、事故死した夫への愛や、横恋慕から破綻していく男女関係などのより複雑な人間の心理を取り上げ、果ては、社会風刺としての食人や精神分裂病、ポルトガルの広大な戦争史、死体に恋する青年など同じ監督とは思えないほどに多様な作品群を生み出しました。今回の特集では、その106年という1世紀を超える生涯と、そこに映し出された各時代を回顧します。

2. ヨーロッパの歴史的・宗教的深みを湛えた作品群

オリヴェイラの作品は、幸福、愛、真実とは何か、など人間の普遍的なテーマを問いかけます。その背景には、聖書の寓話や、ギュスターヴ・フローベール、ドストエフスキー、ニーチェの文学・哲学的作品、キリスト教文化、フランス、ロシア、ドイツの古典文学などの教養があります。歴史的土壌が異なる日本では、一見難解な彼の映画ですが、ファンに「3時間超の長編を観てもなお、まだ映画が続いてほしいという気持ちになる」とさえ言わしめるほどの魔術的な魅力を備えています。今回の「映画の極意」では、日本の映画界の中で気鋭の若手評論家として注目される土田環氏(早稲田大学理工学術院)と、ポルトガル文化に精通する木下真穂氏(ポルトガル大使館)をトークゲストにお迎えし、15世紀の大航海時代の植民地戦争の歴史や、世界大戦期のユダヤ人の亡命、ホメロス、ダンテなどと類されるポルトガル史上最大の詩人ルイス・ヴァス・デ・カモンイスの叙事詩など、普段、日本ではなかなか触れることができないその映画に隠された歴史的な深みと魅力を解説していただきます。

3. 北陸初にして最後かもしれない、世界最大の映画作家の傑作選

今年、三島由紀夫賞を受賞した東京大学第26代総長にして映画評論家の蓮實重彦氏は、オリヴェイラの多様にして深遠な世界観を讃え「世界最大の映画作家」と評しています。しかし、近年、デジタル化の波におされ、映画館の数は大幅に減少し、フィルム映画の歴史やオリヴェイラ作品など数々の傑作が紹介される機会を失い、人々の記憶から忘れ去られる危機に直面しています。この状況が今後ますます続くならば、おそらくこの規模でオリヴェイラの特集が組まれることは北陸では二度とないでしょう。シネマコンプレックスやインターネットやレンタルでは決して観ることができない、流行とは無縁の、世界映画史に刻まれたポルトガル映画の名作を、この機会にお見逃しなく！

トークイベント

土田環（映画研究者）×木下真穂（ポルトガル語翻訳者）
「文学と映画の饗宴—オリヴェイラ作品の魅力」

現役最高齢の映画監督として知られ、ベネチア国際映画祭特別金獅子生涯功労賞やカンヌ国際映画祭パルムドール名誉賞など世界的にも高い評価を得る巨匠オリヴェイラ。しかし、日本ではまだまだ知られていません。そこで、ポルトガル映画にも精通する映画研究者の土田環氏と、同国の文化に造詣が深く翻訳などを手がけてきたポルトガル大使館の木下真穂氏を迎え、その作品の魅力について考えます。

日時:12月4日(日) 13:30~14:45

会場:金沢21世紀美術館 シアター21

料金:入場無料 ※ただし、チケットの半券が必要

土田環 TSUCHIDA Tamaki

映画研究者。早稲田大学理工学術院講師。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得満期退学。学生時代より内外の映画祭や企画上映、フランスやイタリアなど海外からの撮影業務に携わる。編著書に『ペドロ・コスタ 世界へのまなざし』、『We Can't Go Home Again—ニコラス・レイ読本』など。

木下真穂 KINOSHITA Maho

ポルトガル語翻訳者。上智大学ポルトガル語学科卒。ポルトガル大使館に勤務するかたわらポルトガル映画の字幕訳および監修、文芸書の翻訳などを手がける。オリヴェイラ作品では、『レステロの老人』と『フランシスカ』の字幕訳を担当した。主な訳書に、パウロ・コエリョ著『ブリーダ』『マクトゥーブ 賢者の教え』など。

プロフィール

マノエル・ド・オリヴェイラ Manoel De OLIVEIRA

1908年12月11日にポルトガル北部の港町ポルトに生まれる。1931年に初監督作『ドウロ河』を撮り、42年に初の劇場用長篇映画『アニキ・ボボ』を発表。家業を続けながら映画制作を続け、62年に長篇第2作『春の劇』を発表するが、「ポルトガルには検閲が存在する」という発言によって投獄される。10年を経て1972年3本目の長篇『過去と現在 昔の恋、今の恋』を発表。1974年独裁政権が終わり、オリヴェイラは『ベルニデまたは聖母』(75)、『破滅の愛』(78)、『フランシスカ』(81)と「挫折した愛の四部作」を構成する作品をつぎつぎに発表。また、敏腕プロデューサーのパウロ・ブランコと組み、自分の望む企画を実現できる環境を得る。2015年4月2日没。享年106歳。



タイムテーブル

- 12月2日(金)
19:00~ アニキ・ボボ (71分)
- 12月3日(土)
10:00~ 過去と現在 昔の恋、今の恋 (115分)
13:15~ フランシスカ (166分)
16:30~ カニバイシュ (91分)
18:30~ ノン、あるいは支配の空しい栄光 (110分)
- 12月4日(日)
10:00~ 神曲 (141分)
13:30~ トーク「文学と映画の饗宴—オリヴェイラ作品の魅力」(40分)
レステロの老人 (19分)
追悼作品 (10分)
15:00~ アブラハム溪谷 (187分)

定員:110名(各回入れ替え制・全席自由)

上演作品

アニキ・ポボ 12/2 19:00

オリヴェイラの長篇デビュー作。陽光降り注ぐポルトの街を舞台に、躍動するアナーキーな少年少女たちを縦横無尽に活写してネオレアリズモの先駆的作品と見なされる。「アニキ・ポボ」とは警官・泥棒という遊びの名前。幼い恋の冒険を「罪悪」と「友愛」の寓意へ変貌させる演出のスケール感はずでにして巨大。

1942年/71分/モノクロ
監督・脚本: マノエル・ド・オリヴェイラ
撮影: アントニオ・メンデス
出演: ナシメント・フェルナンデス、フェルナンダ・マトス、オラシオ・シルヴァ



2

過去と現在 昔の恋、今の恋 12/3 10:00

長篇劇映画第3作。ヴィンセンテ・サンチェスの戯曲「過去と現在」を監督が自ら映画用に翻案。『フランシスカ』に至る「挫折した愛の四部作」の第1部にあたる。現在の夫に心を開かず、事故死した最初の夫への想いを募らせる妻ヴァンダを中心に、過去と現在、死者と生者の間を交差する奇妙な愛が描かれる。

1972年/115分/カラー
監督・脚本: マノエル・ド・オリヴェイラ
撮影: アカシオ・ド・アルメイダ
出演: マリア・ド・サイセット、マヌエラ・ド・フレイタス、ペドロ・ピニウイロ



3

フランシスカ 12/3 13:15

1850年代のポルト。小説家カミーロ・カステロ・ブランコと友人のジョゼ・アウグスト、そして「フランシスカ」と呼ばれる英国人の娘ファニー・オーウェン、実際にあった3人の恋の物語をもとに、アグスティナ・ベッサールイスが書いた小説「ファニー・オーウェン」の映画化作品。ふたりの男に愛されたフランシスカはジョゼを選ぶが、3人の関係は悲劇的な結末を迎える。『過去と現在 昔の恋、今の恋』、『ベニルデまたは聖母』、『破滅の恋』とともに「挫折した愛の四部作」を構成する。

★日本語字幕付35ミリフィルム/日本初上映
1981年/166分/カラー
監督・脚本: マノエル・ド・オリヴェイラ
原作: アグスティナ・ベッサールイス「ファニー・オーウェン」
出演: テレサ・メネデス、ディオゴ・ドーリア、マリオ・パロソ、マヌエラ・ド・フレイタス、セシリア・ギマランイス、パウロ・ローシャ



Photo: Francisca / Cinemateca Portuguesa - Museu do Cinema

4

カニバイシュ 12/3 16:30

『過去と現在』から音楽を担当してきたジョアン・バエスとともに作られたオペラ・ブッフ映画。厳かに進行する貴族たちの晩餐会は、やがて、タイトルが予告する驚愕の食人場面へ。人間と動物、人間と機械、見せかけと本質…ヴァイオリンの調べに乗ってあらゆる境界が軽々と侵される。

1988年/91分/カラー
監督・脚本: マノエル・ド・オリヴェイラ 撮影: マリオ・パロソ
出演: ルイス・ミゲル・シントラ、レオノール・シルヴェイラ、ディオゴ・ドーリア



5

ノン、あるいは支配の空しい栄光 12/3 18:30

1974年、独立戦争が長期化していたアフリカのポルトガル植民地で、疲弊した兵士たちは植民地戦争の意味と自国の歴史を振り返る。カモンイスの叙事詩「ウズルジアダス」、アントニオ・ヴェイラ神父、フェルナンド・ペソア、ジョゼ・レジオなどの文学作品に想を得て、ローマ時代から20世紀まで、ポルトガル民族の2000年にわたる歴史の中の4つの敗北の物語を描く、オリヴェイラによる壮大な歴史・戦争映画。

1990年/110分/カラー
監督: マノエル・ド・オリヴェイラ 脚本: マノエル・ド・オリヴェイラ、ジョアン・マルケス
撮影: エルソ・ローク
出演: ルイス・ミゲル・シントラ、ディオゴ・ドーリア、ミゲル・ギリエルメ、ルイス・リュカ



6

神曲 12/4 10:00

「精神を病める人々」の表札が掲げられた邸宅で、アダムとイブ、キリスト、ラスコリーニコフ、ニーチェのアンチ・キリストら歴史的文学作品の登場人物たちが、信仰と理性と愛についての議論を戦わせる。西洋古典の深奥に分け入りながらも「まったく未知なものとして、絶対的な驚き」とともに再び映像として蘇らせるオリヴェイラ芸術の真骨頂。

1991年/141分/カラー

監督・脚本:マノエル・ド・オリヴェイラ 撮影:イワン・コゼルカ

出演:マリア・ド・メデイロス、ミゲル・ギリェルメ、ルイス・ミゲル・シントラ



7

レステロの老人 ※トークイベント内での上映となります 12/4 13:30

ポルトガルの大航海時代を詠った国民詩人カモンイス、「ドン・キホーテ」の作者セルヴァンテス、『破滅の恋』の原作者である19世紀ポルトガル・ロマン派の小説家カステロ・ブランコ、20世紀初頭の詩人パスコアイス。4人の文学者がポルトガルの過去と未来について語り合う。タイトルである“レステロの老人”は、大航海時代の栄光に異を唱える人物として、カモンイスの詩『ウズ・ルジアダス』の中に登場する。

2014年/19分/カラー

監督・脚本:マノエル・ド・オリヴェイラ 撮影:レナート・ベルタ

出演:ルイス・ミゲル・シントラ、リカルド・トレバ、ディオゴ・ドリリア



8

※映像編集のヴァレリー・ロウズルーによるオリヴェイラ追悼作品も併せて上映します。

アブラハム溪谷 12/4 15:00

フロベール『ボヴァリー夫人』をもとにポルトガル文学の巨匠アグスティナ・ベッサールイスが原作を執筆。彫琢された言葉の響きとオリヴェイラの完璧な映像が火花を散らす“文芸映画”の最高峰。監督が追求し続ける女性美が、主人公エマを演じるレオノール・シルヴェイラと洗濯女を演じるイザベル・ルトの両極に具現する。

1993年/187分/カラー

監督・脚本:マノエル・ド・オリヴェイラ

原作:アグスティナ・ベッサールイス 撮影:マリオ・パローゾ

出演:レオノール・シルヴェイラ、セシル・サンス・ド・アルバ、ルイス・ミゲル・シントラ



9

広報用画像

画像1~9を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記をお読みの上、下記へお申し込みください。

金沢 21 世紀美術館 広報担当/川守(広報室)

〒920-8509 金沢市広坂 1-2-1

TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802

<http://www.kanazawa21.jp>

E-mail: press@kanazawa21.jp

<使用条件>

※トリミングはご遠慮ください。画像が切れたりキャプション等の文字がかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送りください。

※アーカイヴのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVDなどをお送りください。

以上、ご理解とご協力を頂けますようお願い申し上げます。